

令和3年度 水産試験場研究成果発表会 のご案内

水産試験場では、取り組んでいる調査研究や技術開発の成果を報告・発表することにより、本県水産業の振興・発展に寄与することを目的として、「水産試験場研究成果発表会」を開催しています。

しかし、昨年は11月に入って新型コロナの感染が拡大したことから、集客方式による開催は困難と判断し、Web発表会による開催へと変更したところです。

今年度もコロナ禍の中にあって、本県におきましても8月にはこれまでにない感染の拡大がみられ、ようやく最近になって感染者の確認もなくなってきたところです。

集客方式による開催も不可能ではない状況にはなりましたが、今後の動向の不透明性や準備等を考慮し、今年度につきましてもWeb発表会とさせていただくこととしました。

成果発表会は、研究員のプレゼン能力向上や水産試験場の成果を広くお知らせするための重要なイベントでありますので、出来るだけ多くの方にご覧いただきたいと考えております。

準備ができ次第、文書やホームページ等で周知いたしますので、是非ともご覧いただくと幸いです。

1. 動画配信予定日時：令和4年2月1日（火）～

2. 配信 URL：<http://www.mz-suishi.jp>



※動画配信予定日時になりましたら、宮崎県水産試験場ホームページの「新着情報・お知らせ」欄に「令和3年度水産試験場研究成果発表会」をアップします。



3. 発表内容(予定)

(1) 日向灘に來遊するマサバと海況との関係 (資源部 主任研究員 山田和也)

近年春季に産卵回遊する大型マサバの豊漁が続いておりましたが、2021年の春季は漁獲量ベースで前年比30.2%と大幅に減少しました。

本研究では、本県に産卵回遊する大型マサバの特徴と近年の海況に着目し、來遊と海況との関係性を考察するとともに、近年AI(人工知能)の開発で注目を浴びているプログラミング言語であるPython(パイソン)を用いた機械学習による來遊予測モデルを紹介します。

(2) ウナギ種苗生産に必要とされる親魚養成・採卵技術の開発 (増養殖部 主任技師 中神秀一)

宮崎県のウナギ生産量は全国第3位(令和元年)で重要な産業の一つとなっていますが、ニホンウナギは国際的な資源管理が必要とされるほど資源量が減少しており、養殖種苗となるシラスウナギの採捕量は近年極めて少なくなっています。

このため、水産試験場では国の研究機関などと連携し、人工種苗の生産技術開発に取り組む中で、親魚養成や採卵技術の開発に取り組みましたので、その成果について紹介します。

(3) 軟骨魚類を用いた加工品の開発 (経営流通部 技師 濱田美砂)

水産試験場では、これまでも水産物の特性把握や加工技術の改善、新製品の開発を行ってきたところですが、資源の活用を促進すべきにもかかわらず、セールスポイントが解らない、加工に手間が掛かるといった理由で単価が上がらないといった魚種などがあります。

本研究では、そのような魚種のうち、シュモクザメやアカエイ(低利用・未利用資源)を活用した、加工食品やペットフードの開発を行ったので紹介します。

(4) 県内河川における生物採捕調査及び河川構造物による影響調査 (内水面支場 技師 中武邦博)

内水面支場では、県内の河川について1年に1河川を対象に、魚類や十脚甲殻類(エビやカニ)の生息状況調査を実施しています。対象河川を数年おきに調査することにより、現状と過去を比較し、生息状況等に変化がないか、その把握に努めているところです。

また、河川における堰等の構造物によって、生物等の生息状況に影響がないか、その影響調査も実施しています。

今回は、これまでの調査のうち4河川の結果について紹介します。